

南信州広域連合議会
全 員 協 議 会

平成27年2月23日

南信州広域連合事務局

南信州広域連合議会 全員協議会会議録

平成27年2月23日（月） 午後 3時40分 開議

1. 開 会
2. 議長あいさつ
3. 理事者あいさつ
4. 報告・協議事項
 - (1) 検討委員の指名
 - (2) 検討委員会報告
 - 総務・文教・消防検討委員会
 - 環境・福祉・医療検討委員会
 - 建設・産業・経済検討委員会
 - (3) 次期ごみ処理施設整備事業の状況について
 - (4) リニア中央新幹線計画について
 - (5) 伊那谷自治体会議及び地域づくり勉強会について
 - (6) 南信地域広域道路ネットワーク計画について
 - (7) 基本構想・基本計画について
 - (8) 大学入試センター試験会場に対する要望について
 - (9) 平成26年消防統計について
 - (10) 平成27年度議会日程について
5. 閉 会

全 員 協 議 会

平成27年2月23日

南信州広域連合議会事務局

南信州広域連合議会 全員協議会

日 時 平成27年2月23日（月） 午後3時40分～午後4時47分
 場 所 飯田広域消防本部 3階会議室
 出席者 熊谷議員、下平（豊）議員、松村議員、森谷議員、小澤議員、中山議員、野竹議員、後藤（文）議員、宮嶋議員、土田議員、高坂議員、勝野議員、勝又議員、仲藤議員、本島議員、宮下議員、樋口議員、坂本議員、松井議員、関議員、湯澤議員、森本議員、小倉議員、湊議員、新井議員、清水議員、吉川議員、永井議員、福沢議員、木下議員、林議員、井坪議員、13市町村長（阿智村長欠席）、佐藤副管理者、渡邊事務局長、吉川事務局次長、桂消防長、関島消防次長兼総務課長、松川消防本部警防課長、大蔵消防本部警防課専門幹、北原消防本部予防課長、平岩飯田消防署長、清水伊賀良消防署長、細田高森消防署長、三石阿南消防署長、米山飯田環境センター事務長、北原飯田環境センター専門主査、園原飯田環境センター庶務係長、中原飯田環境センター管理係長、北原事務局次長補佐兼庶務係長、秦野事務局広域振興係長、下島事務局介護保険係長、塚平事務局企画調整担当専門主査、有賀消防本部総務課長補佐兼庶務係、片桐事務局庶務係主事、清水事務局付専門主査、加藤事務局付専門主査、牛久保町村会事務局長

1. 開 会
2. 議長あいさつ
3. 理事者あいさつ
4. 報告・協議事項

No	項 目 名	資料	頁
1	検討委員の指名	*	5
2	検討委員会報告 総務・文教・消防検討委員会（清水委員長） ・2広域連合議会行政課題研究会 県の行政機能のあり方検討部会報告 環境・福祉・医療検討委員会（井坪委員長） 建設・産業・経済検討委員会（吉川委員長）	2	5
3	次期ごみ処理施設整備事業の状況について …資料による説明（米山事務長）	3	8
4	リニア中央新幹線計画について …資料による説明（渡邊事務局長）	4	10

No	項 目 名	資料	頁
5	伊那谷自治体会議及び地域づくり勉強会について …資料による説明（渡邊事務局長）	5	11
6	南信地域広域道路ネットワーク計画について …資料による説明（渡邊事務局長）	6	15
7	基本構想・基本計画について …資料による説明（渡邊事務局長）	7	16
8	大学入試センター試験会場に対する要望について …資料による説明（渡邊事務局長）	8	17
9	平成26年消防統計について …資料による説明（松川消防本部警防課長）	9	18
10	平成27年度議会日程について …資料による説明（北原書記長）	10	18

5. 閉 会

1. 開 会

午後3時40分

(林議長) それでは、ただいまから全員協議会を開会いたします。

2. 議長挨拶

(林議長) 本会議に引き続いてでありますので、議長挨拶は省略させていただきます。

3. 理事者挨拶

(林議長) 連合長挨拶も省略でいうことですので、よろしくお願いします。

4. 報告・協議事項

(1) 検討委員の指名

(林議長) 早速、4の報告・協議事項に入ります。

初めに、検討委員会の報告を議題といたします。

本会議でも申し上げましたとおり、松川町議員の辞職により、南信州広域連合議員の変更があり、検討委員会の委員の指名をいたしましたので、その指名を事務局にて朗読いたします。

北原書記長。

(北原書記長) 総務・文教・消防検討委員、関克義議員。環境・福祉・医療検討委員、松井悦子議員。建設・産業・経済検討委員、坂本勇治委員。以上でございます。

(林議長) ただいま報告がありましたとおり、御指名をいたします。

なお、総務・文教・消防検討委員会は副委員長選出のために全員協議会終了後、特別検討委員会を開催いたしますので、よろしくお願いします。

(2) 検討委員会報告

(林議長) それでは、検討委員会の報告を議題といたします。まず、総務・文教・総合検討委員会の報告を求めます。

清水勇委員長。

(清水勇委員長) 総務・文教・消防検討委員会の報告を申し上げます。2月19日に検討委員会を開催し、南信地域における県の行政機能のあり方に関する検討について。2、基本構想・基本計画について。3、旧飯田工業高校の利活用。4、大学入試センター試験会場に対する要望について。5、民俗芸能保存継承プロジェクトについての5項目について協議を行いました。

南信地域における県の行政機能のあり方に関する検討については、平成26年12月24日に開催された第2回県の行政機能のあり方検討部会及び1月14日に、2広域連合議会行政課題研究会が実施した長野県知事に対する要望活動の報告がありました。要望書の作成に関してはその過程について説明を受けました。なお、この取り組みについてはこのあと下平副議長より報告をいただく予定となっております。

2月6日に中部伊那町村議会、協議会が知事宛に行った提言活動に第二県庁の設置に関する項目が含まれていた件について、松川町の委員より経過の説明があり、複数の委員から上伊那広域議会との2広域連合議会として県の行政機能のあり方について、検討を行っていることをよく理解していただきたいとの意見がありました。基本構想、基本

計画については策定した計画の趣旨について説明がありました。旧飯田工業高校の利活用については、同校の校舎を産業振興と学術研究の知の拠点として活用したいむね、長野県知事あての要望書を広域連合、広域連合議会及び南信州飯田産業センターの連名にて、提出したいとの説明がありました。

大学入試センターの試験会場に対する要望については、大学入試センター試験の会場を飯田下伊那にも開設するよう要望書を提出したい旨の報告がありました。委員からはもっと早く要望をすべきだ。受験生の利便性確保のため、地域連合議会も要望にかわるべきとの意見があり、了承されました。本件についてはこのあと改めて事務局より説明が予定されておりますので、御判断をいただきたいと思えます。

民俗芸能保存継承プロジェクトについては、平成27年度から取り組みを開始するプロジェクト事業についての報告がありました。その他消防本部から飯田信用金庫からの寄附申し出について、及び消防統計等について報告があり、聞きおくことといたしました。以上、報告とさせていただきます。

(林議長) 説明が終わりました。御質疑はございませんか。

なければ本件については聞きおくこととしたいと思えます。

次に、2広域連合議会行政課題研究会、県の行政機能のあり方検討部会の報告を求めます。

下平副議長。

(下平副議長) それでは、2広域連合議会行政課題研究会の部会の報告をさせていただきます。

2広域連合議会行政課題研究会、県の行政機能のあり方検討部会の状況について報告をいたします。本編につきましては、昨年8月29日に開催をいたしました全員協議会におきまして、設立の経過等について御報告を申し上げたところでございます。それ以降の取り組みについて申し上げたいと思えます。

11月14日に伊那市役所におきまして、第1回目のあり方検討部会を開催いたしました。当広域連合から正副議長と総務・文教・消防検討委員の正副委員長が出席をし、上伊那広域会議からは正副議長と総務委員長が出席をいたしました。会議の内容は当広域連合議会が10月20日に愛知県の東三河総局の視察を行っておりましたので、その報告を行うとともに、機構改革や移動知事室の検討など、長野県における行政機構の検討状況の報告を事務局から受けたところでございます。

意見交換の中では、南信地域は長年にわたり、県庁から遠いというハンデを背負っている。権限移譲や現地機関の強化も大切だが、まずは県の意識改革を求めたい。あるいは、リニアを契機に本腰で南信地域の振興に取り組んでいただきたい等々といった意見がありました。さらに、1月に上伊那で移動知事室を実施することが検討されているため、その際、要望活動を行ってはどうかとの提案がございました。これが承認をされ、要望内容については両広域議会が検討して持ち寄ることといたしました。12月の24日には第2回目のあり方検討部会をここ飯田広域消防本部において開催をいたしました。出席者は前回に加えて宮田村の田中議長さんが上伊那広域議会の総務副委員長に就任され、新たに参加されました。

一方、当広域議会の総務文教消防検討委員会の副委員長が空席となったため、欠席となりました。会議では1月14日に移動知事室において、要望を行うことが確認をされ、その内容について協議を行いました。その中で、要望時間が短時間しか確保できないと

いう見込みの中で、地域振興に関する事項を要望に含めるか否かが議論となりましたが、上伊那広域議会の強い要望もあり、道路整備と地域医療の充実の2項目について要望項目とすることといたしました。1月14日に長野県伊那合同庁舎において、阿部知事への要望活動を行いました。要望側の出席者は2回目のあり方検討部会と同様でございました。要望内容につきましては、本日追加配付いたしました資料2のとおりでございますので、お目通しをいただきたいと思っております。なお、1月14日の県知事への2広域連合の要望に対しまして、知事からは北高南低という言葉方をするが、少なくとも道路関係については相当伊那谷重点になっている。長野県は現地機関を地方事務所という念頭でやってきたが、これは旧来型の念書だと感じている。リニア関係では現地機関にできるだけ、権限を委譲して、迅速に対応してまいりたい。リニアによる飛躍的な時間短縮、時間距離が短縮されるので、これまでの延長線上ではない地域の将来ビジョンと一緒に考えていきたい等々のポイントがありました。以上、この間8月以来の2広域連合における活動の状況でございました。なお、このあり方検討議会は平成27年度末をめどに、検討を進めることとしておりますので、方々各議員からの御意見をいただきながら、協議を進めてまいりたいと思っておりますので、よろしく願いをいたします。

以上、この間の2広域連合議会行政課題研究会の部会報告とさせていただきます。よろしく願いいたします。

(林議長) 説明が終わりました。御質疑はございませんか。

(「なし」との声あり)

(林議長) ないようでございますので、本件について聞きおくことといたしたいと思っております。

続いて、環境・福祉・医療検討委員会の報告を求めます。

井坪隆委員長。

(井坪委員長) 環境・福祉・医療検討委員会の協議状況について報告いたします。2月17日に当検討委員会を開催し、1点目として次期ごみ処理施設整備事業の状況について。2点目として、飯田下伊那診療情報連携システムについて。3点目として南信州広域連合基本構想・基本計画について。以上、3項目について事務局から説明を受け、協議を行いました。

次期ごみ処理施設整備事業の状況については、最近の取り組みの経過報告とともに、施設の配置や、建物の計画図が資料として示され、説明を受けました。また、3月26日に現地にて、起工式を実施する予定であるとの報告がありました。飯田下伊那診療情報連携システムについては、システムの運用状況の報告とシステム更新に向け、在宅医療の展開を計画していること。更新経費の確保に課題があること等について説明がありました。委員より、システム更新費用がどのぐらいかとの質疑があり、詳細な数字を持ち合わせていないが、サーバー機器の更新では合計して数千万円規模の経費が必要と聞いていると答弁がありました。南信州広域連合基本構想基本計画については、作成した経過と趣旨について説明がありました。委員より当地域は県境を超えた連携を行っていることが特徴だが、計画の中では扱いはどの質疑があり、基幹事務事業で三遠南信サミットやSENAについては言及しているとの答弁がありました。また、委員より今回の計画が圏域の今後の設計図になることを期待するとの発言がありました。以上、報告とさせていただきます。

(林議長) 説明が終わりました。御質疑はございませんか。

(「なし」との声あり)

(林議長) ないようでございますので、本件について聞きおくことといたしたいと思いを。
続いて、建設・産業・経済検討委員会の報告を求めます。
吉川秋利委員長。

(吉川委員長) 建設・産業・経済検討委員会の協議状況について報告いたします。2月19日に当検討委員会を開催し、1件目、リニア中央新幹線計画について、2件目、伊那谷自治体会議及び地域づくり勉強会について、3点目、南信における道路ネットワークについて、4点目、南信州広域連合基本構想・基本計画について。5点目、旧飯田工業高校の利活用について。6点目、鳥虫害対策射撃場施設整備支援事業についての6項目について事務局より説明を受け、協議を行いました。

リニア中央新幹線計画については、JR東海による説明会の開催状況や質疑の状況等について報告を受けました。委員は、JR東海は地元から要望があれば、確認書を取り交わすとしているが、実効性はあるかとの質疑があり、法的な拘束力はないが、内容は具体的な項目を想定しており、実効性は確保されることを考えていると答弁がありました。

伊那谷自治体会議及び地域づくり勉強会については、リニア中央新幹線計画に関し、地域振興等について長野県が事務局となって協議を行っている会議の状況について報告を受けました。伊那谷自治体会議では、リニアバレー構想が提案されて了承されたこと。また、リニア開業にともなう経済波及効果の調査結果が示されたことについて報告を受けました。南信における道路ネットワークについては、長野県が策定する上伊那及び地域の広域的な道路ネットワークについて基本的な考え方とネットワークを形成する案が示されたことについて報告を受けました。委員から個別の路線で検討されているバイパス等については反映されているかとの質疑があり、今回は路線としての重要性を認めるもので、整備の手法については今後検討していくとしているとの答弁がありました。

南信州広域連合基本構想基本計画については策定した計画の趣旨について説明がありました。旧飯田工業高校の利活用については、同校の校舎を産業振興と学術研究の知の拠点として活用したいむね、長野県知事あての要望書を広域連合、広域連合議会及び南信州飯田産業センターの連名にて、提出したいとの説明がありました。鳥獣害対策射撃場施設整備支援事業については、飯伊連合猟友会が計画している射撃場施設整備について、鳥獣害対策の推進のためいるものとして支援を行いたいとの説明がありました。

以上、報告とさせていただきます。

(林議長) ただいまの説明に対して御質疑はございませんか。

(「なし」との声あり)

(林議長) なければ、本件について聞きおくことといたしたいと思いを。

(3) 次期ごみ処理施設整備事業の状況について

次に、次期ごみ処理施設整備事業の状況についてを議題といたします。理事者側の説明を求めます。

米山飯田環境センター事務長。

(米山飯田環境センター事務長) それでは、資料3をごらんいただきたいというふうに思います。次

期ごみ処理施設整備事業の状況についてでございます。

1の経過についてでございますが、1月の後半から2月の初旬にかけて、地元3地区のまちづくり、あるいは地域づくり委員会、または対策委員会、常会等で次期ごみ処理施設の建設運営にかかわります契約以後の経過と現状の報告、それから地元地区との協定に基づきます稼働前の周辺の環境調査、いわゆる現状を抑える事前調査でございますが、その説明会を行っております。

事前調査につきましては、2月の3日から13日に大気・土質関係の調査は終了しておるという状況でございます。今後は、夏に水質の調査を行って、地元地区への報告説明会を行っていくという予定しております。

1月の23日に下久堅地区のまちづくり委員会による県道米川駄科停線に関する県道改良の要望活動がございました。この県道米川駄科停線につきましては、次期施設へのごみ搬入車両の約6割が利用すると予測されておりました、広域連合としましても同席しまして、早期改善の要望活動をしております。

それから、現在の施設桐林クリーンセンターの関係でございますが、ISO14001につきまして、毎年継続審査を行っておりますが、ことしにつきましては3年に1度の更新審査でございますが、これにつきましては2日間審査を受けまして、結果は更新可ということで御連絡をいただいておりますという状況でございます。

2月13日に桐林クリーンセンターの連絡協議会がございました。これは、竜丘、伊賀良の地元2地区との協議会でございますが、ごみ処理にかかわります構成13市町村の首長さんの皆さんが出席されまして、開催をしておるという状況でございます。

(2)の予定でございます。起工式についてでございますが、次期ごみ処理施設にかかわります起工式につきまして、3月26日木曜日午前11時から現地で行う予定でございます。主催は受注者でございます荏原環境プラントが行うということでございます。

続きまして、2の次期ごみ処理施設の状況報告でございますが、契約をお認めいただいて以来、現在にも詳細設計に向けて協議は継続中でございますが、まだまだ確定したものではありませんが、おおよそ骨格となります施設の配置、それから建物のイメージについて現在の状況を御報告申し上げます。

2ページをごらんいただきまして、施設の配置予定図でございます。今まで説明申し上げまして決まってきました内容と大きな変更はございませんで、県道が現地の谷の上のほうから、図面でこうしますと、左下のほうから見ますと、奥からプラント、それから管理棟、駐車場、それからストックヤードという配置でございます。煙突につきましては、工場棟の西の方向の角付近、工場棟の真上の方向に小さいですが図面上二つ〇が見えると思っておりますが、この位置でございますが、隣接される民家から対角線上の一番離れたところに設ける計画でございます。造成のイメージでございますが、下から工場棟の段、それから管理棟と駐車場の段、それからストックヤードの段とおおむね地形に沿いました大きく3段の造成を予定しておるという状況でございます。

次の3ページをごらんいただきまして、管理棟の立面図でございます。右上が正面から見た南東側。幅が約30メートル程度で、さらに一部3階建ての建物ということで予定しております。図面左回りにその左が南西側。奥行きが約17メートル程度という予定でございます。その下が北東側、図面右下が北西側、プラント側から見たような図面になります。ごらんのように建物の感じとしましては、切妻片流れの屋根形状でござい

まして、地元の皆さんとの協定にもございました景観との調和という点でイメージとしては和風をイメージしております。管理棟につきまして構造は鉄骨造ということでございます。続きまして、4ページが管理棟と工場棟が一緒になった図でございますけれども、正面から見ておるところでございます。重なっておりますのでわかりにくいですが、右下の部分が管理棟、その後ろに工場棟が見えるという図面でございます。

5ページが北東側から建物施設全体を見たところでございます。左側の管理棟から渡り廊下で工場棟へわたって、工場棟内の視察ができる構造ということになっております。まだ、確定したものではありませんので、これから実施設計に伴って、最後の若干の変更はありますが、ほぼこのような骨格でイメージとして御承知おきいただきたいというふうに思います。

また、建物の色につきましても、地元の皆さんとの協定に基づいて、今後の協議ということになってまいります。現在のところはモノトーンの黒、またはグレーと。それから白、ベージュの組み合わせで、この地域に見られるような蔵のようなイメージというものを想定しております。それから、大ざっぱな今後の工事予定でございますが、おおよそことしの5月ぐらいから造成工事が本格化してまいります。ことしの年末12月ごろからは建築工事に着手をされ、その設備工事等がございます。平成29年の11月には竣工の工程で進めておるという状況でございます。今後も進捗状況に伴いまして、御報告申し上げてまいります。現在の状況はこのような状況であると御承知おきいただきたいというふうに思います。説明は以上でございます。よろしく願いいたします。

(林議長) ただいまの説明について、御質疑はございませんか。

(「なし」との声あり)

(林議長) ないようでございますので、本件について聞きおくことといたしたいと思っております。

(4) リニア中央新幹線計画について

次に、リニア中央新幹線計画についてを議題といたします。理事者の説明を求めます。
渡邊事務局長。

(渡邊事務局長) まず資料の4の1をごらんをいただきたいと思っております。資料でございますように、県のリニア推進振興室のほうでおまとめいただいたものでございまして、2番をごらんをいただきますと、昨年の11月4日から18日にかけて、9市町村にて開催された事業説明会の概要ということでございます。1,700人余の方が御参加をいただいております。

1枚おめくりをいただきますと、その場でのJR東海の主な説明内容ということで、整理をされておりますが、この中で特に①地元との協定締結ということで、右をごらんいただきますと、評価書と同じ内容の協定は結ばないが、評価書に書かれていない事項について工事用車両のルートでありますとか、台数でありますとか、そうした事項について地元から要望があれば確認書、文書を取り交わすということになっております。また、こうした内容等につきまして関係自治体と情報共有をしながら進めていこうということでございます。また、3ページには市町村別の主なスケジュールということで、整理をされておりますので、ごらんをいただきたいと思っております。

資料の4の2でございますが、これは、私どもと飯田市、県と一緒に調整の場を持つ

ておりますが、ここで私どものほうで改めて整理をしたものでございます。これにつきましては、市町村単位で開かれました説明会に続いて、地区別単位で実施されたものにつきまして、まとめたものでございます。ごらんいただきますように、11月22日から12月22日にかけて、のべ29カ所で1,600名余の方が御参加いただいて、説明会が開催されております。2ページ以降の11ページまで質問を主な質疑内容につきまして、同じような質問があったところにつきまして、星取りみたいな形で整理しております。今後でございますけれども、事業説明会を行うまでに事前に関係市町村あるいは関係地区とこまごましたことを詰めて、そうしたものが整った段階で事業説明会に臨みたいというようなJR東海の意向もございますので、ここに出されておりますような質疑事項、あるいは具体化に伴いましてさらに出てまいりますようなことに関しまして、情報を共有しながら県とともに必要な事項について圏域が一体となって取り組んでいきたいというふうに考えております。また状況に応じまして、適宜議会側にも御報告、御相談を申し上げてまいりたいというふうに思っておりますので、よろしく願いをいたします。

続きまして、4の3でございますけれども、これも報道等あったと思いますけれども、県の関係のリニアの組織改正が4月1日を目途に行われるということでございます。今までは企画振興部で全てリニア関係のことを調整をしてきていただいておりますが、4月以降は主にハード、ソフトといったような感じで建設部と企画振興部に担当がわかれてということのようでございます。また2番にございますように、現地機関としてリニア整備推進事務所の設置ということで、これは主に用地取得業務への対応のために飯田建設事務所内に設置をされるということでございます。また御承知おきをいただければと思います。

それから資料4の4でございますが、これはこののちの説明事項に主に関係することでございますが、今までも若干説明をさせていただきましたが、リニアに関係いたしまして、県等の事務局になって進めている会議の一覧ということでございます。またこののちの事項の中で説明をさせていただきますが、こんな会議があるということで、御承知おきを賜りたいと思います。以上、説明とさせていただきます。よろしく願いします。

(林議長) 説明が終わりました。御質疑はございませんか。

(「なし」との声あり)

(林議長) ないようでございますので、本件につきましては聞きおくことといたしたいと思いません。

(5) 伊那谷自治体会議及び地域づくり勉強会について

次に、伊那谷自治体会議及び地域づくり勉強会についてを議題といたします。理事者側の説明を求めます。

渡邊事務局長。

(渡邊事務局長) それでは、本会議冒頭の連合長あいさつにもございましたけれども、伊那谷自治体会議の状況につきまして御報告をさせていただきます。資料の5の2をごらんをいただきたいと思えます。さる2月3日に長野県庁で開催されました会議におきまして、リニアバレー構想ということで、承認というかされたものでございます。この構想につつま

してはリニア中央新幹線を生かした伊那谷全体の振興、地域づくりの方向を示すということでまとめられたものでございます。時間の関係もでございますので、完結にさせていただきますが、1ページから2ページにかけましては、伊那谷をめぐる状況ということで、国交省の国土のグランドデザイン2050等を引用して、位置関係等々が示されております。3ページでございますが、まずリニアバレー構想が目指す姿といたしまして、国際空港へ1時間でアクセスするグローバル活動拠点をはじめといたしまして、そこにありますような4つの視点を整理したということでございます。以下、簡潔に説明させていただきますが、まず国際空港へ1時間でアクセスするグローバル活動拠点につきましては、伊那谷が首都圏と中京圏のちょうど中間に位置するということや、羽田、セントレアという両国際空港から約1時間の時間距離になることを踏まえまして、伊那谷の豊かな自然環境や産業集積などをいかし、企業の中核機能の受け皿となることや次世代産業の創出を目指そうというものでございます。それを実現するために、高度な都市生活と大自然に囲まれた環境が近接した新しい産業集積など、具体的な方向を示しているということでございます。

次のページでございますけれども、2つめの柱といたしまして、巨大災害等のバックアップと食料、エネルギーの新しい供給拠点といたしまして、都市機能や研究機関の移転、あるいは企業の中核機能のバックアップ、災害時の食料や医療提供の拠点のほか農業、林産資源など伊那谷の多様な資源を活用することによりまして、食料やエネルギーなどの新しい供給拠点を目指すとしております。それを実現するために豊富な水資源や圧倒的に少ない自然災害などの状況を生かしまして、研究機関や企業の本社機能など、都市機能の移転を推進するなど、幾つかの方向を示しております。

その下段でございますが、3つ目の柱、高度な都市空間と大自然とが近接した対流促進圏域といたしまして、新しいライフスタイルを提供する対流促進圏域を形成するとしております。それを実現するために移住定住2地域居住の促進。豊かに暮らすための地域づくり、魅力ある自然環境の保全と景観の形成の3つの分野を取り上げております。ここでその対流ということばでございますが、ここでもグランドデザインでありますとか、国土形成計画、農水省等々でこのことばが多く使われるようになってきております。さまざまな交流を同時多発的に起こしていく。また、それらが活発に行われている状況をあらわしているというような意味合いを込めて使われているということでございます。

5ページでございますが、4つ目の柱といたしまして、世界から人を呼び込む感動フィールドといたしまして、インバウンドも含めた広域観光の推進によって交流人口も拡大する感動のフィールドを目指すとしております。それを実現するために、広域観光ルートづくりをはじめとしてまして、4つの分野を取り上げているということでございます。

次の6ページには、構想実現のための基盤整備といたしまして、アクセス道路やリニア、長野県駅周辺整備などにふれているということでございます。これに関しましては、連合長あいさつにございましたように、国土形成計画、広域中部圏計画に持っていただくということが当面の目標、目的ということでございます。また、具体的な進め方などにつきましては、今後協議をしていくことになるというふうに思っておりますので、またその時々で議会側にも御説明申し上げ、御意見等伺ってまいりたいというふうに思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

続きまして、資料5の3、経済波及効果でございます。これは県が公表したものでございまして、承知いたしておりますところを御説明させていただきたいと思っております。各ページの左側にありますページ番号で御説明いたしますので、お願いをいたします。2ページには算定の目的ということで書かれております。さまざまな施策立案等の参考にすることが最終的な目的ということで、開業効果は県民の皆さんにわかりやすく伝えるということも重要な目的というふうにされております。また、この算定に当たりましては、長野経済研究所の協力アドバイスをいただいているということでございます。

それから3ページには、経済波及効果といったどんな内容かといったものが示されております。4ページに今回の算定対象ということで書かれておりますが、リニア整備に伴う効果といたしまして、図にありますように、直接効果、それから間接効果というものがございます。今回は間接効果のうち、工事費の推定が可能なリニア建設工事の投資、それから県の新総合交通ビジョンのデータが活用できるリニア利用者による県内消費を対象にしたということでございます。

5ページにその算定方法があるわけでございます。まずリニアの建設工事の投資につきましては、県外における建設工事費を推定したのちに、産業連関表というある種の公式に当てはめて算出をされております。また、利用者による県内消費につきましてはリニアの乗降客数から県を訪れる交流人口を推定いたしまして、その消費額を同じく産業連関表に当てはめて算出したということでございます。

6ページにその結果がございまして、リニアの建設工事の投資につきましては、平成27年から39年の13年間の合計として合計で9,991億円、1年あたり5,756人の雇用が誘発される。また、利用者による県内消費につきましては、リニア開業に向けた観光振興等の取組を見込んだ上で、平成39年のリニア開業時に年間336億円ということでございます。

次に、その算定の詳細につきまして若干御説明をさせていただきたいと思っております。8ページでございます。リニア建設工事の投資効果の詳細でございますが、これは国交大臣が認可いたしました工事実施計画に基づきまして、具体的な工事費が明らかになりましたことから、全体を長野県内の事業量で案分してということでございます。県内での建設投資額を6,068億円と推計いたしまして、これをその産業連関表というのに当てはめると先ほどの9,991億円ということになるということだと思っております。この数字はあくまでも一つの目安ということでございます。

9ページには、利用者による県内消費ということで書かれております。9ページには長野県を出発地、目的地とするリニア中央新幹線の乗降客数の推定結果でございまして、1日当たり8,400人、年間では約307万人の乗降客数ということであります。この地域長野県駅の乗降客数の6,800人につきましては、県の新総合交通ビジョンで示されているということのようでありまして、3駅リニアのその3駅活用法ということを踏まえまして、県内旅行客の利用が期待できる山梨県、岐阜県、両駅につきましても、同様の推計を行いました。それぞれがここにありますように1,000人と600人ということでございます。

10ページにおきましては、その乗降客数につきまして、今度長野県からリニアを利用して県外へ向かう利用者の数が含まれているということから、県外から長野県を訪れる交流人口を推計したということであります。観光庁の統計資料を用いたということで

あります。その結果といたしまして、1日当たりの交流人口として乗降客数の約6割にあたる4,800人が見込まれるということでもあります。

それから11ページであります。県内消費額の算定でございますが、先ほど求めました交流人口に県が関係機関観光統計資料から求めた一人当たりの消費単価を乗じまして、1日当たり6,800万円ということのようでございます。

今度12ページでございます。経済波及効果の内わけでございますが、先ほどの消費単価を1年あたりの額に換算いたしまして、これを産業連関表に当てはめてということのようでございます。その結果といたしまして、年間約288億円。内わけといたしまして、観光目的が186億円、ビジネス等が約99億円ということでございます。

13ページでございます。経済波及効果につきましては開業に向けてさまざまな取り組みを進めることで効果を拡大することができるという考え方から観光客の増加を想定した場合の主な算定をされています。日本人観光客につきましては、しあわせ信州創造プランにおける取り組みの目標値をそのまま仮定をいたしまして、15%の増。それからインバウンド誘致の効果といたしましては、国の最高戦略におけるの目標値を参考にいたしまして、外国人観光客が2.5倍に増加するという、そういう想定でございます。なお、外国人観光客の人数が日本人観光客と比べて少ないにもかかわらず大きな経済波及効果を生み出すということになっておりますけれども、これは外国人観光客の県内での消費額が日本人の約4倍という観光統計の結果をもとにしているということでございます。いずれにいたしましても、経済波及効果は一定の仮定に基づき、算定いたしました一つの目安ということでございます。実際のリニア開業における効果が今後の取り組みによって大きくかわっていくということでございます。その意味では、今後の取り組みが重要になるということを改めて感じているところでございます。

また、議会の委員会では6,800人というような根拠について御説明ございましたが、これは一定の確率といえますか、その数学的な算式に基づいて一応算出をされた数字のようでございます。ちょっと数式がいろいろありまして、中身は余りよくわかりませんが、そこら辺はまたコンサルタントのノウハウにもかかわるところでございます。ただ、JR東海の試算が7,000人ということでございますので、おおむねの方向としては間違っていないと。そんな認識であります。

それから続いて、5の4でございます。これにつきましては、先ほどの4の4の資料でお示しいたしました会議の一覧の中にございますけれども、このあとで御説明申し上げる道路ネットワークと対をなすというふうにお考えいただければいいかなというふうに思います。これから御説明するのがソフト部分。それから道路ネットワークがハード部分ということだろうというふうに思います。5の4の右側上のほうに、将来戦略と目指す目標ということで掲げられております。ごらんいただきましたように、いまだに全体を7つのエリアにわけまして、それぞれにつきまして取り組みの方向などを示しております。表現の仕方はまちまちでございますけれども、全体といたしまして伊那谷自治体会議と大きな方向性は同じだというふうに理解をしているところでございます。

以上、ちょっと急ぎ足になりましたが以上で説明とさせていただきます。

(林議長) ただいまの説明について御質疑はございませんか。

(「なし」との声あり)

(林議長) ないようでございますので、本件について聞きおくことといたしたいと思っております。

(6) 南信地域広域道路ネットワーク計画について

続いて、南信地域広域道路ネットワーク計画についてを議題といたします。理事者側の説明を求めます。

渡邊事務局長。

(渡邊事務局長) 資料6をごらんいただきたいと思います。これも今御説明申し上げましたように、リニアの関係でいろいろな会議の一つということでもあります。1ページの下段をごらんいただきまして、おわかりいただきますように、平成25年の1月から会議が開催をされております。目的といたしまして、一番上のほうに書いてございますけれども、長野県駅が設置されることを契機といたしまして、上伊那にまたぐ広域的な道路ネットワーク計画を策定する。そのために、多角的な立場から助言、意見をもらう委員会ということで設置をされてきました。この提言に基づいてこれからまた具体的な取り組みを県のほうで考えていかれるという性格のものでございます。これにつきましては、右端でございますように、第6回目が去る2月17日に開催をされまして、その場で一応取りまとめられたというものでございます。5ページをごらんをいただきますように、検討の過程におきましては、地域ニーズの把握ということで、ここでございますように、自治体の意見、それから2の2といたしまして地域住民、トラックやタクシー事業者の意見、それから次ページにいろいろございますが、それぞれいろいろな意見を聴取をしながら進めてきたということでございます。

それから、7ページの3のところでは将来像ということで、先ほど来出ております国土形成計画中部圏の広域計画や三遠南信の連携ビジョン、あるいは県の新総合交通ビジョンなどとの、この地域の将来計画、将来構想をしていく上で、広域的な道路ネットワークとして多くの役割が求められているというふうになっております。

次ページ、道路交通の課題といたしまして、大きく3つの点で整理をされております。南信地域を超える動きに関するもの。2番目といたしまして、南信地域の周辺の動きに関するもの。3番といたしまして、リニア中央新幹線長野県駅周辺の動きに関するものということでございます。この中で、ちょっと片仮名が多くてなかなかわかりにくい部分ございますが、9ページの一番上、災害時のリダンダンシー確保。リダンダンシーといいますのは、この場では多重性ということで、言ってみればその代替路線の確保といったことで御理解いただければいいと思います。また、ミッシングリンクの解消ということで、ミッシングリンクといいますのは、連続性が期待されているのに途中で途切れている。要するに通行不能の箇所やなんかがある。そういうのを解消していこうということでございます。

次のページでございますが、そうした検討を加えまして、求められるネットワークの提案ということで、大きく二つの考え方といいますか、整理をされております。まず、広域的な道路ネットワークの基本的な考え方といたしまして、下にございますように①～③までの基本方針がございます。それに基づきまして、11ページ2番といたしまして、広域的な道路ネットワークと機能につきまして、地域外への円滑な移動を狙い、広域的な交流を支える道路ということと、地域の取り組み拠点を結び活性化を支える道路という大きく二つに分類をされまして、ここにはそれぞれなどということ例示になっております。

具体的な路線といたしましては、次のページのA3の縦長の地図でございますが、これが一応最終的に整理をしたものだということでもあります。ただ、これだと地図が小さ過ぎて、路線がよくわからないので、最終的にはもう少し大きく拡大するというようになっております。これはどの路線につきまして、各路線についてどのように整備していくのか、あるいはまたどの路線から取り組んでいくのかといったような具体的なことは今後の検討によるというふうになっております。ただ、この中には先に公表されましたリニア長野県駅へのアクセス関連道路も含まれておるということで、その部分については優先的ということだというふうに思っております。今後につきましては、これを受けまして、当広域連合といたしましても、その整理の内容あるいはできれば優先順位ということになるのかもしれませんが、できるだけ早くまた必要な検討を加えていく、いきたいというふうに考えております。また、その折には具体的に議会側にも御相談申し上げますので、よろしくお願いを申し上げます。以上でございます。

(林議長) 説明が終わりました。御質疑はございませんか。

(「なし」との声あり)

(林議長) なければ、本件について聞きおくことといたしたいと思っております。

(7) 基本構想・基本計画について

次に、基本構想・基本計画についてを議題といたします。理事者側の説明を求めます。
渡邊事務局長。

(渡邊事務局長) 恐れ入ります。資料の7をごらんをいただきたいと思っております。リニア時代を見据えた戦略的地域づくりに向けた旧飯田工業高等学校利活用ということでございます。これは、先ほどの基本構想・基本計画の中で、基本計画の第1章第3節にインフラ整備というのがありましたが、その中で研究開発機能の拠点施設にあたるものとして、早速であります。具体的に県に要望をしてまいりたいとするものでございます。南信州飯田産業センターと飯田市の提案を受ける中で、広域連合会議におきまして検討し、方向性を認めたと、進めていこうという集約をしたものでございます。また、議会のブロック代表者会におきましてのお計らいをさせていただきまして、御了解をいただき、三者で要望をしてまいりたいとするものでございます。知事への要望に対しましてはまだ具体的な日程調整がこれからということでございます。1枚おめくりをいただきまして、趣旨等はそこでございます。記書きのところに具体的に県としての格段の協力をということをお願いをしております。内容につきましては3ページ以降でございます。3ページこれは今までも何回も出てきているものというふうに思います。それから4ページ、このナレッジ・リンクというものをこの当地域にあわせて、少し説明を加えたものが4ページ、5ページということだというふうに整理をいたしましたものでございます。5ページが一番下段でございますように、人、物、情報が活発に行きかう交流の場、知の拠点のプラットフォームとして旧飯田工業高校を活用していきたいというものでございます。5ページをお開きをいただきたいと思っておりますが、具体的にはどのように活用を考えていくのかというまだイメージの段階でございますが、この右側の写真にお示しをさせていただきますように、大きく3つのエリア、ゾーニングをして利活用を考えていきたいということでございます。ただ、最終的な事業主体でありますとか、事業内容、費用負担等々はこれからの検討課題ということでございますが、まずは県の所有財産であります旧飯

田工業高校施設の活用を要望していくということでございます。

また、なお、具体的な計画策定に向けましては、現在飯田市が今年度の補正予算の中で調査検討を先行して進めるということになっておりますので、御承知おきを賜りたいと思います。また、これにつきましても具体的にいろいろ動きがありましたところでまた議会側にも御報告、御相談申し上げていきたいというふうに思っておりますので、よろしく願いをいたします。以上でございます。

(林議長) 説明が終わりました。御質疑はございませんか。

(「なし」との声あり)

(林議長) なければ、本件について聞きおくことといたしたいと思います。

(8) 大学入試センター試験会場について

続いて、大学入試センター試験会場に対する要望についてを議題といたします。理事者側の説明を求めます。

渡邊事務局長。

(渡邊事務局長) もう一つおつき合いいただきたいと思います。資料の8でございます。これにつきましては、先ほどの総務・文教・消防検討委員会の委員長さんの御報告にもあったことでございます。下伊那高等学校校長会から広域連合に対しまして、協力要請があり、広域連合といたしましても全面的にサインを示して取り組んでいこうとするものでございます。要望の趣旨につきましては、2ページのところの記書き以下にございます。大学入試センター試験の試験会場を飯田下伊那地域に一つ新設をしてほしいということでございます。その根拠といたしまして、3ページのほうに、大きく3つの点から整理をしております。一つは規模ということで、5つ目、6つ目のぼつでございますけれども、当地域の受験者が500人を超えているということで、県内にはそれよりその半分くらいの受験会場もあるということ。それから、この5年ぐらいでその500人というのは大きく変化はしていかないということ。2番目といたしまして、アクセスの困難さということで現在信大農学部ということでございますので、飯田市役所あるいは阿南高校からごらんいただいたとおりの時間、物理的な距離、また電車を利用いたしますと1時間半以上の時間距離になるということでございます。それから、3番目といたしましてそれと関連いたしまして、交通、積雪等交通障害が非常に起こりやすい状況でございまして、そうしたことが受験に与える、臨む子供たちにも非常に大きなハンデになっているということでございます。

説明は以上でございますが、先の委員長報告にございましたとおり、総務・文教・消防委員会といたしましては、この要望に広域連合議会も加わるべきだという御意見がありましたので、またこの場で集約をしていただければというふうに思います。以上でございます。

(林議長) 説明が終わりました。御質疑はございませんか。

(「なし」との声あり)

(林議長) なければ、この要望に関しましては、先ほど総務・文教・消防検討委員会委員長からの報告にもありまして、広域連合議会の要望につき加わるということについてということでございますが、これについて御発言がありましたらお出しいただきたいと思います。

(「なし」との声あり)

(林議長) ないようでございますので、本件について南信州広域連合議会といたしましても、要望書に加えることを確認をしたことといたしたいと思います。

(9) 平成26年消防統計について

次に、平成26年消防統計についてを議題といたします。理事者側の説明を求めます。
松川消防警防課長。

(松川消防本部警防課長) 平成26年消防統計について概要を御説明いたします。資料ナンバー9をごらんください。初めに、火災などの特徴について御説明をいたします。火災件数は98件で前年より22件減少をいたしました。火災による死者は4人で昨年より1名減少しておりますが、住宅火災による死者は3名で昨年より1名増加しております。火災によります負傷者は18名で昨年より1名増加いたしました。火災の原因の1位はたき火で18件でした。次いで、火入れが原因の火災が10件、たばこが原因の火災が7件となっております。

続きまして、救急の主な特徴について御説明をいたします。救急件数は7,107件で昨年より428件増加いたしまして、初めて7,000件を超え、過去最高の件数の更新となっております。搬送した人員を年齢別に見ますと、65歳以上の高齢者が全体の67.5%を占めております。消防防災ヘリ、ドクターヘリと連携した活動は46件で昨年より15件減少をいたしました。救助の主な特徴について御説明をいたします。救助件数は124件で昨年より6件増加いたしました。救助した人員は94名で昨年より3名増加しております。ヘリコプターと連携した活動は2月の広域による孤立集落からの救助や山岳事故によるものが12件ありまして、昨年より4件増加し、19人を救助しております。救助出動で最も多かった事故種別につきましては交通事故で49件あり、全体の39.5%を占めました。次いで、その他の事故に含まれます山岳にかかわる事故が16件となっております。なお、消防統計の本資料を添付させていただいております。また、広報誌、広報飯田消防も添付させていただいております。あわせて御高覧いただきたいと思います。以上でございます。

(林議長) 説明が終わりました。御質疑はございませんか。

(「なし」との声あり)

(林議長) なければ、本件について聞きおくことといたしたいと思います。

(10) 平成27年度議会日程について

次に、平成27年度議会日程についてを議題といたします。事務局の説明を求めます。
北原書記長。

(北原書記長) 資料ナンバー10をごらんください。平成27年度南信州広域連合議会日程について御説明いたします。さる2月5日議会運営委員会におきまして、平成27年度南信州広域連合議会の日程を御決定いただきました。5月25日月曜日及び8月28日金曜日に全員協議会を予定してございます。この二つの全員協議会につきましては御審議いただきたい案件が出てまいりました場合は臨時会になろうかと思っておりますので、よろしく願いいたします。12月1日火曜日に平成27年第2回定例会。年が明けまして、平成28年2月26日金曜日に平成28年第1回定例会を予定しております。以上のような日程となりますので、御予定のほどよろしく願いいたします。

(林議長) 議会日程について説明がありましたが御質疑はございませんか。
(「なし」との声あり)

(林議長) なければ、本件について確認したことといたしたいと思います。
予定の案件は全て終了いたしました。その他で何かございますか。
渡邊事務局長。

(渡邊事務局長) 済みません。先ほど基本構想・基本計画のところちょっと一点お願いを忘れてしまいました。お認めいただきましたものの実施等に向けまして、3月28日の土曜日でございますけれども、講演会等を行いたいと思います。四国の神山町のNPOグリーンバレーの大南さんをお招きをいたしまして、講演会等を行いたいと思っております。また、改めて御案内を差し上げますので、また御参加、御聴講いただきますようお願いを申し上げます。以上でございます。

(林議長) ほかありませんか。
(「なし」との声あり)

(林議長) ないようでございますので、以上をもちまして全員協議会を閉会をいたします。長時間大変御苦労さまでした。

閉 会 午後4時47分